

<http://www.japanplatform.org/we/index.html>

平成19年度グローバルに活躍できる「広島っ子」育成事業

第三回「国際交流体験プロジェクト」を実施



〔実施概要〕

日時：2007（平成19）年 9月15日（土）10：00 ～ 16：00

場所：広島市青少年センター

対象：高校生39名・留学生4名

講師：永井博記氏

（（社）アジア協会アジア友の会 テクニカル・アドバイザー【JAFS】）

〔テーマ〕

地域における国際貢献活動

〔講師プロフィール〕

1950年生まれ。76年京都大学農学部林学科卒業、25年間にも亘り材木商人として東南アジア各国を飛び回る。現在は和環境もやいネット理事、京大探検者の会事務局長を務める。

〔内容...当日配布資料より抜粋〕

フィールドワークに対する興味

16 - 17歳のころ、山に登ることに興味を持ち、動物相や植物相(動物物・植物の生態)を観察していました。そして野外科学者になって自然

環境と人間の関係について研究したいと思っていた。山を安全に登るために、色々な本を読みましたが、最後には、野生の感覚を身に着けねばならないと知ることになりました。

大学に入ってから、海外探検に出かけられるようになるために、探検者クラブに参加しました。そして、有名な教授達や活動的な野外科学者に出会いました。このクラブ活動の中で「自分自身を如何にフィールドに案内していくか、情熱的な夢を如何に実現させるか」を習いました。結果として、友人とヒッチハイクでオアシス研究のためにサハラ沙漠へ行きました。この経験では多くの人々の温かい心に触れ、またそれと同時に「村入り」の難しさを学びました。「村入り」=村社会に受け入れられ友好的に滞在すること

東南アジアにビジネスフィールドを求めて

材木商人として東南アジアの空路を行ったり来たりおよそ25年間過ごしました。多くのタイプの文化と人々の生活に触れ「ビジネスとは何か」を理解しました。主な場所はインドネシアでした。そこでは樹木の命の再生と木材を扱う技術的な技法を教えねばなりませんでした。なぜなら、樹木には限られた命があり、したがってどのように育み、我々が殺した樹木をどのように利用し、なにが最高で最も効果的な利用方法かということです。人間の生活は(植物や動物)の生命の犠牲と人間同士の相互扶助の上に成り立っているのです。

人間の絆を求めて

私は、人間は社会集団のために何らかの役割を持って生まれてきたと思います。私達が担わなければならない役割はどんなものかはすべて私たち自身にかかっていると思います。確かではありませんが、私の立場は、自然災害で被害を受けた地域に貢献することのようです。私の役割は時には研究調査者であり、時には救援チームのリーダーであるかもしれませんが、またある意味で民間の外交官かもしれません。

私は自然災害で打ちのめされた人々が回復し、勇気を持って新しい彼らの歴史を作っていくことを期待し、ちょっとした役割を持ってそこに参加したいと思います。

〔内容およびスタッフ感想〕

日本経済新聞編集委員である原田勝広さんの「メディアから見た国際社会と日本」というテーマの講義では、現在の様々なグローバル化してきている問題に対して、政府、企業、NGO・NPOや社会企業家などがどのような活動を行っているか、具体的な活動の例も挙げながら説明を受けた。

そして説明後、グループにわかれて討論を行った。環境、女性、人権、NEET、子ども教育、高齢者などから今起こっている問題を見つけその解決方法としてどのようなものがあるか話し合いをした。時間の関係上深い討論はできなかったが、環境についての発展途上国の権利、NEETの問題における個々の家庭の大切さなど、各グループが自由に活発に意見を出し合っていた。

【広島修道大学3年：品川仁志】